

メディアを読み解く力を育てる単元の開発に関する研究

—動画テキストの比較と分析を通して論理的・批判的思考力を高める—

荒 川 恵 美

要旨 本研究は、中学校国語科における、メディアを読み解く力を育てる単元の開発に関するものである。「メディア生活者」としての態度の育成を目指す。そこで、ICT機器をツールとして活用し、積極的にメディアからの素材を求め、学習材に適しているかという視点で選択した動画を「動画テキスト」として、国語科の授業に活用する。比較と分析を通じた言語活動によって生徒の論理的・批判的思考力を高めることを目的とした。「メディアを読み解く」授業をカリキュラムに位置づけて行うことの有効な示唆が得られた。

キーワード メディアリテラシー メディアを読み解く 論理的・批判的思考力 動画テキスト ICT

I 課題の所在

知識基盤社会と呼ばれるようになって久しい。生徒たちを取り巻く現代の環境はこんな社会である。インターネットにつながる様々なコンピューターから生み出される全世界のデジタルユニバース（全世界で生成あるいは複製されたデジタル情報の総量）は、米国IT調査会社のIDCによれば、2020年には40ゼタバイトに達する。聞き慣れないこの単位だが、1ゼタバイトは「世界中の砂浜の砂の数」だという。ビッグデータは加速度的に増大し、社会は情報爆発時代を迎えており、情報革命がもたらすパラダイムシフトが起きている時代、なのである。知識は大量に生産され、否が応でも提供され続けていく。だからこそ、次代を担う子供たちの教育から、パラダイムシフトを起こさねばならない昨今なのである。

そこで、新しい時代の環境を生き抜くためには、ICT機器をツールとして活用し、積極的にメディアからの素材を国語科の視点で学習材とした授業を取り入れ論理的・批判的思考力を高めることが喫緊に必要であり課題と言える。

国を挙げてメディアリテラシー教育を重要視していることは、文部科学省によるさまざまな調査、改訂、公表からもわかる。ここ数年の間に、まず、情報活用能力調査が2013年から2014年にかけて初めて行われた。小中学生とも、複数の情報から必要な情報を見つけ、関連付けて考えることが苦手という結果となった。また、2017年3月31日には新学習指導要領（次期学習指導要領）が文部科学省告示として公示された。歴代の指導要領で初めて前文を設け、「社会に開かれた教育課程」を理念として掲げられた点にも反映されていると捉える。中学校国語科の

目標には、「社会生活に必要な国語」「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力」という語が強調されている。高等学校との接続を考えたとき、特に注目すべきは次の点にある。従来の「国語総合」「国語表現」「現代文」「古典」という区分が、「言語文化」と「現代の国語」「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探求」に変わる。必修となるこの「現代の国語」は、実社会、実生活に生きてはたらく国語の能力を育成する科目として新設される。つまり、この「現代の国語」で目指す力は、今、我々が耳や目にしている情報を必要に応じて読み解き、自分なりの最善な判断をし、多様な人々とよりよいコミュニケーションを取りながら使いこなしていける国語力が求められていると言える。背景には、次の課題と方向性（表1）がある。

（表1）高等学校国語科の現行の課題と方向性

- 課題2 話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調
- 課題3 高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題
- 課題4 メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等があまり行われていない



- ・ 収集した情報を解釈し、根拠に基づいて論述したり議論したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する学習を重視（「読むこと」にとどまらず、それを基に「書くこと」や「話すこと・聞くこと」に展開する指導を重視）
- ・ 情報活用能力の育成を重視

※「高等学校国語科の科目構成について」（教育課程部会国語ワーキンググループ資料6より一部抜粋）

一方、中学校国語の教科書には、平成28年の改訂以前にはメディアリテラシーを扱ったものが数社見られた。改訂後には、各社が採り上げるようになり、充実を図ったことが見てとれる。

しかし、紙媒体の国語の教科書だけを使用した授業内容で十分に身に付けさせられるのか。印刷物や手書きの良さを否定するものではない。

情報発信者から伝えられた情報に仕組まれる意図を汲み取り、単に鵜呑みにせず、自分なりの最適な判断をしていくには、クリティカルに読み取れるだけの論理的・批判的思考力が必要となる。媒体で発信された情報には、すべて編集者が存在し、そこには編集意図が存在する。このことをしっかりと義務教育段階からカリキュラムに位置づけ教育することが必要だと考え、これまでも単元開発を行い、実践を重ね、拙稿にて、フライヤーなどの表現様式を用いたり、CMの分析をしたりして、情報の送受信両側の立場で考えさせてきたことを著してきた。

さらに、ソーシャルメディアが進む現在、その即時性と影響力の強い環境に立ち向かわせるには、実際に世の中に流れている旬の動画を「動画テキスト」として授業で扱い、比較と分析から読み解かせることが肝要だ。

海外に目を転じれば、すでにメディアリテラシー教育がカリキュラムに確立している国々などでは、映画を撮影できるスタジオが校内施設にあるなどという光景は普通のことである。日本の教育現場が立ち後れているのは明らかなのである。

Ⅱ 研究の目的および方法

中学校国語科における、メディアを読み解かせる単元を開発し、ICT機器を用いて動画テキストを学習材とした授業の有効性と課題を考察することを目的とする。

主に、千葉大学教育学部附属中学校における「ICT授業研究会(3年研究)」において、研究主題「1人1台タブレット端末の教育的効果と運用上の課題」にて、2016年2月5日に第1学年を、2017年2月10日に第2学年を対象として行った国語科単元「メディアを読み解く」の授業実践提案及び国語科分科会での内容を本研究の中心とした。なお、対象生徒の多くが、国語科のカリキュラムの中で単元「メディアを読み解く」を継続して受けている。効果的な編集の仕方がわかり、編集意図に気づき、それに対して自分の考えをもたせることから始め、動画の真偽性、妥当性、適合性を評価することまで高める内容とした。

Ⅲ 単元開発にあたって

1 「動画テキスト」の選定

(1) 学習材に適している「動画テキスト」とは

塚本(2013)は「情報を『読み解く』とは、少なくとも三つ以上の情報源からの情報内容を収集し、これらの情報を統合して判断する作業から生まれる。加えて、情報発信者は誰で、どのような目的のために情報を発信しているのかといった発信者の視点や、その背景にある文化・宗教・政治・価値観などを総合的に判断しないと、思わぬ誤解や誤報に惑わされることになる。」と言う。

「メディア生活者」として、一つの情報元だけを信じることは大変危険なことである。そこで、ある一つの内容について既に三つに編集してあるもの、または、同じ素材を異なる編集でまとめているものを動画テキストに選定した。具体的には、次の視点(表2)を重視した動画テキストとし、素材発掘の段階から、その内容にも配慮した。

(表2)動画テキスト選定の視点

- ・ 誰に(ターゲット)、何を(ニーズ)、どのような方法で満たすのか、というはっきりとしたコンセプトがあり、編集意図があるもの。
- ・ 人を動かす(説得する)ための「エトス(信頼)」「パトス(共感)」「ロゴス(論理)」の3つの要素が編集に使われているもの。
- ・ 編集コンセプトの異なるもの。

(2)「動画テキスト」を読み解く言語活動

国語科単元「メディアを読み解く」は、中学校学習指導要領国語(2年)「C読むこと」の「イ文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること」と(3年)「エ文章を読み比べるなどして構成や展開、表現の仕方について評価すること」を指導するものである。具体的な言語活動が、次である(表3)。

(表3)「メディアを読み解く」における言語活動

【第1学年】

- 映画「STAND BY ME ドラえもん」(制作年：2014年)の予告編三編を、動画テキストとして比較・分析して読み解く。

【第2学年】

- 2017年1月16日(月)、川越市の男性による車の事故を、NHKと民放2社がどのように取り上げ、編集して伝えたのか、実際の動画ニュースを動画テキストとして比較・分析して読み解く。

生徒の発達段階を考慮して、第1学年では広告や宣伝といった機能をもつ「映画の予告編」の三編とした。実に巧妙に編集されており、編集の仕方を学

ばせるためには非常に適していると言える。つまり、練りに練られた完成度の高い作品であり、より細かい画像の視覚情報、聴覚情報、編集過程という構成要素の一つ一つについて、意図的、戦略的に計算されたものだからだ。また、ドラえもんは、万人に受ける親しみのおけるアニメのキャラクターであり、生徒全員が知っている。また、「STAND BY ME ドラえもん」は3DCGアニメであり、日本だけでなく世界でも上映され、合計すると何百億という興行収入があったという。これだけ売れたのだから、生徒の殆どが知っているだろうという予測のもとに選ん

だ。また、第2学年では社会に目を向けさせる点で、「動画ニュース」三番組を扱った。中学校学習指導要領国語の第3学年「C読むこと」(2)「イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」に関連する。動画ニュースの話題には、あえて中学生らしい話題ではないことが、編集意図やニュースの伝える情報の公共性や妥当性を考えるにはよいと考えた。第3学年で行うことも可能である。

(3)「動画テキスト」の考察

動画テキストで使用した映画の予告編と動画ニュースの考察を以下に示す。(表4, 5)。

(表4) 映画「STAND BY ME ドラえもん」の予告編三編

○映画「STAND BY ME ドラえもん」の内容

多くの人が既に知っている、ドラえもんが初めて登場するシーンから、未来へと帰っていくシーンまでを描きながら、「のび太の成長物語」という面をクローズアップしている。

□映画「STAND BY ME ドラえもん」の予告編三編のコンセプト

予告編① のび太としずかちゃんのラブストーリー風

予告編② スピード感や恐怖感のあるカットを集めたサスペンス風

予告編③ 未来の街の明るいシーンからスタートし、のび太が何度倒されても諦めない、感動編風

▼予告編が一編ではなく、三編も制作された理由として考えられるもの

さまざまな多くのターゲット層をこの映画に動員してファンを獲得するため。

◆結果

ドラえもん映画のほとんどの視聴者が10代が中心だったのに対し、小さい頃にドラえもんで育った世代の20代30代40代が、それぞれに10代と同数の視聴者を得た。

(表5)「動画ニュース」三番組

○事故についての事実

2017年1月16日(月) 川越市の男性(81)が車の事故を起こした。

□動画ニュースの概要 ①「NHKニュース7」(NHK)・②「報道ステーション」(テレビ朝日)・③「NEWS ZERO」(日本テレビ)

① 三番目のニュースとして大きく取り上げた。この日行われた「警察庁事故防止対策に関する有識者会議」で示された分析結果に触れたあと、昨年11月に行われた交通安全教室の映像を後半で流し、「事故防止対策のひとつ 免許自主返納」を強調。

② 六番目のニュースとして。「高齢者ドライバーによる事故がまた起きた」「この日は警察庁の有識者会議初日だった」という事実のみ。

③ 最後の十二番目の「PICK UP」という括りの中の一つとして。5W1Hの数十秒ほどの事故情報のみ。

▼番組コンセプト(太字)／特徴 ※番組HPより一部抜粋

①「夜7時 これさえ見れば1日が分かる 今日の日本 世界の今を あなたのものとへ」

「スタジオセット、タイトルデザインなども一新し、親しみやすさを新たなコンセプトに、お茶の間の家族団らんで見ていただけるニュース番組、それから一日の動きがこれを見ればすぐ分かるというニュース番組を目指します。」(高瀬耕造の談)

②「報道ステーションはあくまでも現場取材でわかった事実だけを、正確に視聴者にお伝えしてきます」(熊本地震の際の富川悠太の談)。久米 古舘に続く3代目のメインキャスター、富川は、『報道ステーション』で毎日発生するニュースの現場を飛び回り、現地から生の情報を伝え、現場主義を貫く人物。視聴者に寄り添った庶民派報道番組として、リニューアルに成功した。

③「ZERO(原点)にかえて、はじめる。世の中の様々なことをZEROから考え直してみる」

テレビのニュース番組は「公共性」と「視聴率」という真逆の命題を追求するという難しさがあり、さらに、テレビ離れが話題になる「若い世代に届ける」というコンセプトを掲げる。キャスターには若い櫻井翔や桐谷美玲を起用し、同年代の視点を交えながら報じ、有識者中心の堅い番組とは一線を画している。

2 メディアリテラシーを育てるカリキュラムの位置づけ

国語科単元「メディアを読み解く」の授業実践提

案をカリキュラムの中の軸として、年間で十時間程度を位置づけた（表6）。

（表6）中学校国語科でメディアリテラシーを育てる各単元のカリキュラムにおける位置づけ

実施学年・実施時期 単元名・時間数	学習の概要
【中学1年生 10月】 ●単元「本の帯を作ろう」 （5時間）	本の帯と映画の予告編は「広告」「宣伝」という共通要素を担っている。そこで、単元「メディアを読み解く」の実施前の事前学習として、本の帯を制作を取り入れた。重松清の『くちぶえ番長』『きよしこ』とヴェルヌの『十五少年漂流記』の難易度の異なる読みもの三冊を提示し、その中から一冊を選択する形で、冬休みの長期期間を生かした課題読書を行わせた。その際、事前に本の帯を作るという学習の目的を予告しておいた。その中から一冊を選択する形で、教師が作成したオリジナルの型を入れたpower point画面を、生徒一人ひとりがタブレットにダウンロードして、それを利用して帯を作成させた。帯には「キャッチコピー」「あらすじ」「一行紹介文」「本文の引用」の四つの項目を書かせた。特に「キャッチコピー」については、広告界のAIDMAの法則に従い、人々の目を惹く効果的な表現力が身につくよう、書く能力についても同時にねらいとした。授業者が分類したA～Kの十一種類のレトリックを学習した上で、社会で目や耳にする身近なキャッチコピーを生徒が実際に収集、分類し、それに倣って本のキャッチコピーを考えさせた。
【中学1年生 1～2月】 ○「メディアを読み解く」 （6時間）	*「ICT授業研究会(2年次)」公開授業実践 映画「STAND BY ME ドラえもん」(制作年：2014年)の予告編三編を、動画テキストとして視覚・聴覚・文字情報を比較・分析して読み解く。
【中学2年生 5月】 ●単元「東京五輪のエンブレム決定」 (2016.4.26)を伝える新聞四紙(朝日・読売・毎日・千葉日報)から、論調の違いを読み比べよう （6時間）	中学2年生の2月の時期の、単元「メディアを読み解く」第2弾に向けて、紙媒体の新聞の読み比べを行い、新聞の構成を教え、社会に発信する新聞の役割やニュースの報じられ方などを意識させておいた。記事の内容は、一度は「東京五輪のエンブレム決定」である。一度は決まりかけたエンブレムだったが、取りやめとなった事件を経てやっと正式なエンブレムが決定したことを、どのように各社が報じているのかを探らせた。「(今回のエンブレムは)国民のデザイン感覚反映」「国民意見も評価が高い」と国民を強調してあったり、「選考の透明性に腐心」したという選考過程を強調してあったり、異なる視点から記事はまとめられていた。このニュースは各紙ともにこの日の一面での扱いであったが、千葉日報のみ、一面の下部分に位置し、二番目の扱いであった。また、中面の関連記事数や内容については、各紙まちまちであった。それぞれの記事の「主見出し」「カット見出し」を書き抜き、「本文内容概略」をまとめさせた上で、わかりやすさや内容の適・不適について考えさせ、自分の感想を残させた。また、「画像」については言葉で説明して書かせて比較させた。さらに、記事に引用されているコメントに着目し、その数、人物、内容を分析させ、相違点や共通点を挙げながら、新聞各社(記者)の伝えたい思いや意図を探り、記事を批評して文章にまとめさせた。
【中学2年生 2月】 ○「メディアを読み解く」 （4時間）	*「ICT授業研究会(最終年次)」公開授業実践 川越市の男性による車の事故を、NHKと民放2社がどのように取り上げ、編集して伝えたのか、実際の動画ニュースを動画テキストとして比較・分析して読み解く。

Ⅳ 「ICT授業研究会(最終年次)」公開授業実践の単元の実際

1 単元目標

(1) 中学1年生

国語への関心・意欲・態度	予告編動画のそれぞれのコンセプトや編集意図を探るために、三編に共通している画像や、一編だけ、或いは二編だけに共通しているシーンや、意図的に挿入された画像について指摘するために、意識的に動画を視聴し、その違いを分析し、意味を考えようとしている。
読む能力	予告編三編を比較して読み解き、共通する画像や異なる画像を指摘することで、異なるコンセプトからなる編集の仕方を分析し、表現意図や表現効果について自分なりの考えをもつことができる。
言語についての知識・理解・技能	映像の構成や順序の効果に気づき、ターゲットとする受信者や発信目的に応じて、編集の仕方に違いがあることを理解することができる。

(2) 中学2年生

国語への関心・意欲・態度	同じ事件のニュースを報道するときに、三番組がどのような時間帯のどこで何をどのように情報を編集して構成し伝えるのか、異なる編集意図を番組コンセプトやナレーション・コメント内容から探り、理解しようとする。
読む能力	高齢者の事故を伝える動画ニュースのあり方について、三番組を比較し分析することで、番組側の主張や編集意図を洞察し、情報の編集がどのようになされたのかを理解し、情報の公平性や妥当性について自分の考えをもち、メディアの接し方を考えることができる。
言語についての知識・理解・技能	動画ニュースの構成や順序の効果に気づき、ターゲットとする受信者や発信目的に応じて、編集の仕方に違いがあることを理解することができる。

2 単元計画

(1) 中学1年生

事前 「ドラえもん」に登場するキャラクターについて、自分がもっているイメージを書く。

第一次 映画「STAND BY ME ドラえもん」の内容を理解し、この映画における主題を考える (3時間)

- 映画「STAND BY ME ドラえもん」を視聴する。
- 映画「STAND BY ME ドラえもん」のあらすじを600字～800字でまとめ、自分にとってこの映画のどこが中心的な部分か、付加的な部分かを見極めるとともに主題を考える。
- はじめにもっていたイメージと、この映画のストーリーで、異なっていた点について、書く。
- 心に残った場面についてとりあげ、感想を書く。

第二次 映画「STAND BY ME ドラえもん」を宣伝するコマーシャルフィルムを考える。(1時間)

- 映画「STAND BY ME ドラえもん」を売り出すためのコマーシャルフィルムを考え、キャッチコピー、画像、挿入する曲、台詞、文字情報などを絵コンテにまとめる。

第三次 予告編動画を分析し、編集意図を探り、自分なりの考えをもつ。(2時間)

- 共通する画像や異なる画像を比較して分析し、それぞれの編集の仕方に着目することで、予告編三編のコンセプトの違いや表現意図について、自分なりの考えをもつ。
- 表現意図に基づく表現効果とともに、三本の予告編の売り方について意見をもつ。

(2) 中学2年生

事前 「高齢者による車の事故」について、自分がこれまでにどの程度のことを知っているのか、マッピングで考える。インターネットで「高齢者による車の事故」について調べる。

第一時

- 放映時間やオープニング映像などから番組のコンセプトを考える。
- ①「NHKニュース7」(NHK)・②「報道ステーション」(テレビ朝日)・③「NEWS ZERO」(日本テレビ)の三番組を動画テキストとして視聴し、番組全体の何番目のニュースだったか理解する。

第二時

- 三番組を動画テキストとして比較して視聴し、感想を授業支援ソフト(xSync)で交流する。
- 三番組の動画ニュース「ナレーション・コメント」のシートを色分けすることで、「事実」「解説」「事例」「プラスのコメント」「マイナスのコメント」などのニュースを構成する情報の組み立てを意識的に考える。

第三時

- 三番組で流れた動画ニュースの編集の仕方の違いをグループ内で指摘し合い、編集者の表現意図を読み解き、グループで交流し、xSyncで共有する。
- 意見交流をしたことをもとに、自分がこのニュースを伝える編集者だとしたら、どのような編集とするか考える。

- 「news every.」(1月27日放送)と比較することで、動画ニュースの公平性や妥当性について、多様な視点から読み解く。

第四時

- これまでの学習をふり返り、新聞記事を参考にメディアへの接し方について考える。

3 ICTを活用を通じた工夫と生徒への学習支援

授業で行ったICTの活用については、以下の通りである(表7)。

また、留意点としては、例えば、動画ニュースを無断で編集して生徒にダウンロードさせることは著作権侵害となるためやってはならない行為として挙げられる。

(表7) 授業でのICTの活用事例

【生徒が所持しているタブレットで】

- ・映画の公式HPによる予告編動画を動画テキストとして繰り返し必要に応じて再生させる。
- ・教師がエクセルで作成したワークシートをダウンロードし、色分けしたり書き込んだりさせる。
- ・グループでの意見交流で話し合った内容をまとめて書き込ませる。

【電子黒板、xSyncで】

- ・教師から画像や情報などを生徒全員のタブレットに一斉配信する。
- ・生徒からタブレットに書き込んだ意見を送信させ電子黒板に分割画面などで映して共有する。
- ・送信させたワークシートから選択したものを、再び生徒に送信したり、電子黒板に書き込んだりするなど双方向にやりとりをする。

(1)映画の予告編分析に「カット分析表」の活用

教師がエクセルシートで、「カット分析表」としてワークシートを作成した。これには、予告編動画

の一カット毎に「画像」を貼りつけたもので、「セリフ・ナレーション」「曲」「曲以外」「文字情報」に分けて、それぞれの情報を書き込んだ。それらの情報のいくつかを空欄にしておき(図1)、生徒は手元のタブレットを用いて、繰り返して動画テキストを再生して答えさせた。

今回の予告編動画は一編が約90秒で流れていくために短く感じられるが、三編の動画テキストをカット分析表によって提示した情報量は膨大すぎるほどである。

このカット分析表を活用することで、画像を表す「カット」、場所での切り替えを表した「シーン」、文章では段落にあたる「シークエンス」などの用語の意味と構成を学ばせるとともに、本編の時系列に沿うように画像が並べられていない点に気づかせる。そこには広告会社による戦略的な編集意図が如実に表れているということが、カット分析表の活用によってわかる手立てとなっている。

特に、三編に共通している画像や、一編だけ、或いは二編だけに共通しているシーンや、意図的に挿入された画像について指摘させ、意味を考えさせることで焦点化を図ることによって、予告編を貫く全体のコンセプトの違いが浮き彫りになってくると考えた。

例えば、共通している画像は、ストーリーの山場である雪山で遭難したしずかちゃんをのび太が助けようとするシーンが使われている。それを詳細なカットで見えていくと、そこには微妙な違いがある。また、どのようなカットがその一編だけに使われているものかと言えば、予告編①には、原作のマンガの巻数紹介画像や、学校での仲間との関係を表すシーンが、予告編②ではのび太の足だけ、ジャイアン の胸、腕、手だけのカット、不安げで悲しげな表情のカット、乗物によるスピード感のあるシーンの連続にしている。予告編③では、ドラえもん の「成し遂げプログラム」が完了したあと、ジャイアンに立ち向かっていく壮絶な表情をしたこれまでにないのび太の画像が挿入されていることがわかる。

(2) 動画ニュースの音声情報分析に、「ナレーション・コメント」シートの活用

生徒が所持している一人一台タブレットにこれをダウンロードさせ使用した。番組①の編集に気づかせるために、動画ニュースは番組③②①の順番で視聴させ、二つの課題について考えさせた(図2)。

(3) xSyncによる意見の共有

意見交流の場面で、タブレット及び電子黒板、xSyncを使用し、交流場面で出された意見を共有することで、考えを深化・拡充できるものと考えた。

予告編1 カット分析表							
シーン	カット	シーン	画像	秒数	セリフ・ナレーション	歌詞【曲】	曲以外
1	☆	「おこわりの画像部分は、著作権の関係上、ウェブ上では公開しておりません。」		0.01			
2	☆			0.02			
3	☆			0.03			文字 ずつ カーソ ル音
4	14?			0.09			
5	14?			0.12			
6	☆			0.14		A	あの名作エピソードが満載
7	☆			0.15			
8	☆			0.16			I

(図1 「カット分析表」の一部)

【課題1】「目撃した一般男性」に着目し、セリフを聞き取って書き込むと共に、なぜ、そのコメントがそこへ挿入されたのかを考えてみよう。 ※右のシート内の塗りつぶし部分2箇所

【課題2】 ナレーション・コメント内容に着目し、「事実」には薄い緑色、「解説」には赤色、「事例」には黄色、「プラスのコメント」には薄い青、「マイナスのコメント」にはオレンジ色で、それぞれのセルを塗りつぶそう。どんな順序で、どのような編集が施されていると考えますか。

まずは生徒に、目撃した一般男性のコメントに注目させたい。この男性は、番組1にも2にも登場する同一人物であるが、動画ニュースに切り取られたコメントが異なる。番組1では高齢者の運転に否定的なコメントを、番組2では事故の原因についてコメントしている。 〈段落番号2〉

高齢者が引き起こした事故の中でも、最も悲惨な事故を事例として2例採りあげ、年配の女性が「何も知らないで歩いていた子どもたちのことを考えると可哀想で…」と胸を詰まらせてコメントする動画を挿入している。 〈段落番号6,7,8〉

メインキャスターが今回明らかとなった本件に関連のあるデータを並べ論理的に解説している。 〈段落番号12〉

運転がおぼつかない高齢者の危険な運転を教官が指摘する過去の交通安全教室での動画まで盛り込んでいる。 〈段落番号18～24〉

〈生徒に読み取らせたいこと〉

例：番組1はニュースに対する情報の組み立て方や演出とっていいほどの編集が加えられている。視聴者の感情に直接訴えかけ、共感を得させ、メインキャスターが今回明らかとなったデータを並べて論理的に解説して、免許自主返納へと視聴者の心を動かそうとしているのではないかと読み取れる。番組側が既にストックしている情報の中から、自分たちの主張に見合う動画を入れ込むことで、印象づけているとわかる。番組2、3はいたってシンプルな情報を伝えている。

ニュース3番組を動画テキストとして、ナレーションを詳細に分析しよう						
段落番号	1 話し手	1 ナレーション・コメント	2 話し手	2 ナレーション・コメント	3 話し手	3 ナレーション・コメント
1	男性アナ	相次ぐ高齢者ドライバーによる事故が、後を絶ちません。今日午後、埼玉県川越市のスーパーに81歳の男性が運転する乗用車が突っ込みました。	女性アナ	相次ぐ高齢者による運転事故。警察庁の対策が初めて行われた。今日も事故は起きてしまいました。	女性ナレ	今日午後、埼玉県川越市のスーパーに無職の81歳の男性が運転する乗用車が突っ込みました。
2	目撃した一般男性	「見たらもう、車が目の前に。高齢者の運転ですか。なかなか難しいものがあるんじゃないですかね。」	男性ナレ	商品が散乱する店内。事故は早過ぎる。商品店が起きた。	女性ナレ	男性は軽傷で倉や店員にけがはありませんでした。
3	男性アナ	男性は駐車場から車を出そうとして、警察の警備に、アクセルを強く踏みすぎたと話しているということです。	目撃した一般男性	「アクセルとブレーキを間違えたのかな。それで思い切って入ってきました。」	女性ナレ	男性は店の向かいに止めていた車を装束させた後、踏んでアクセルを踏み込んでしまったと説明している。ということで、警察は、運転操作のミスが原因とみて調べています。
4	男性アナ	相次ぐ事故を受け、警察庁は事故防止の対策に関する有識者会議を開催しました。	男性ナレ	81歳の男性が運転する車がスーパーに突っ込み、商品棚などをなぎ倒してしまいました。		
5	男性アナ	75歳以上のドライバーによる死亡事故を初めて詳細に分析した結果、運転操作の誤りが、75歳未満のおよそ2倍にのぼったことがわかりました。	男性ナレ	強い倉や店員にけがはなく、運転していた男性は無事。運転していた男性はアクセルを強く踏みすぎたと話しているということです。		
6	男性アナ	横浜市の住宅街。去年10月、登校中の小学生9人の列に81歳の男性が運転する軽トラックが突っ込みました。11年7年生の男子の子が重傷で、小学生4人を含む7人が重軽傷を負いました。	男性ナレ	今日、警察庁では相次ぐ高齢者ドライバー事故の対策について、初めて有識者会議が行われました。警察庁の分析では、75歳以上のドライバーによる死亡事故の原因を見ると、ブレーキとアクセルの踏み間違い、運転操作の誤りが最も多く、75歳未満のおよそ2倍になっているそうです。		
7	一般女性	「何も知らないで歩いていた子どもたちのことを考えると可哀想で…」				
8	男性アナ	東京立川市では、去年11月、病院の敷地内を歩いていた62人が、80歳の女性が運転する車にはねられて死にますなど、高齢者ドライバーによる事故は全国で相次ぎ、社会問題になっています。				
9	男性アナ	会議の音声に状況を添えて警察庁は、事故防止の対策に関する有識者会議を開催。				
10	警察庁関係者	「高齢運転者に係る交通事故情報は、大変深刻、喫緊の課題といえます」				
11	男性アナ	会議では75歳以上のドライバーによる死亡事故について、警察庁が初めて詳細に分析した結果が示されました。				
12	男性アナ	おととし1年間に起きた死亡事故の件数は450件で、運転免許を持っている人10万人あたりの件数がおおよそ0.8件。これは75歳未満のドライバーの2.4倍に上ります。最近では、ハンドル操作を誤ったり、ブレーキとアクセルを踏み間違えたりといった運転操作の誤りが最も多く、29%で、こちらが75歳未満のドライバーのおよそ2倍に上りました。また安全不確実性が29%。居眠りなどによる前方の不注意が19%となっています。一方、ドライバー本人が死亡した割合は64%で、75歳未満のドライバーのおよそ2倍に上っています。警察庁は高齢による判断力の低下や身体の変化などが背景にあるのではないかと分析しています。				
13	男性アナ	高齢者ドライバーの事故をどう防ぐのか。				
14	交通安全教室の職員	「できるだけ免許返納してもらおう。今、多いじゃないですか、事故が。」				
15	男性アナ	警察が取り組んでいる対策の一つが、運転免許証の自主返納です。				
16	高齢女性	「まちがえるかなと思って…」				
17	男性アナ	愛知県内では警察が高齢者に、自分から運転を希望している人を見ても取り組みが行われています。				
18	男性アナ	こちらの男性は、				
19	交通安全教室の女性教官	「うわぁ、ちょっと待ってくださ。おっとっと。止まれの標識を今、見えたね。止まる前に確認ですね。」				
20	男性アナ	車庫入れでは、				
21	高齢男性	「また」バック…				
22	交通安全教室の女性教官	「今ぶつかってますね。」				
23	男性アナ	視野の狭さや注意力の低下を指摘された男性、悩んだ末、免許証を返納しました。				
24	高齢男性	「事故のふ、うちにね、できたら」				
25	男性アナ	男性のように免許を自主返納した人は、75歳以上では、一昨年全国で、77%でした。一方で、車の運転がつかない、運転免許を返納した人から、車に代わる移動手段の確保などが課題になっています。警察庁の有識者会議では今後、運転免許の自主返納、より効果的な安全教育などの課題について議論を進め、今年6月をめどに政府への提言をまとめることになっています。				

（図2）教師作成の音声情報を表したエクセルシート（右）と課題に基づいた分析例（左）

4 生徒の反応と学びの成果

(1) 聴覚情報にこだわりコンセプトの把握に繋げた

映画の予告編動画のコンセプトは、BGMの比較だけでも、違いは明白である。予告編①にはチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番による華やかと気高さを、予告編②には人の叫びで臨場感を、予告編③にはホルストの組曲「惑星」第四曲「木星(ジュピター)」が使われており、やや穏やかで楽しい雰囲気演出し、全く異なる曲調を醸し出している。ワークシートに曲名を問う設問を入れておいたのだが、音楽に精通していなければ曲名まではすぐにはわからないと予想していた。しかし、「インターネ

ットでリズムを言葉にしてクリックしたら、曲名に行き着いた」という驚きの生徒が現れ、そのひらめきは侮れないと感じた。

(2) 映画を観るターゲットを想定した編集意図と効果を理解し、自分の考えを持つ

ICTを活用したことで、単元の終末の課題に対し、ある生徒は次のようにまとめた(写真1)。前単元「本の帯を作ろう」での既習内容を生かしてキャッチコピーについての分析を述べつつ、細切れに挿入された画像の順番による編集効果に気づき、コンセプトの違いを理解しながら、自分なりに読み解き、意見をまとめている。

【課題】映画「STAND BY ME ドラえもん」を宣伝する予告編として、この三本それぞれの表現意図に基づく表現効果について述べながら、売り方として適していると思うかについて、あなたの考えを書きましょう。また、なぜ、予告編は三編も作られたと考えますか。

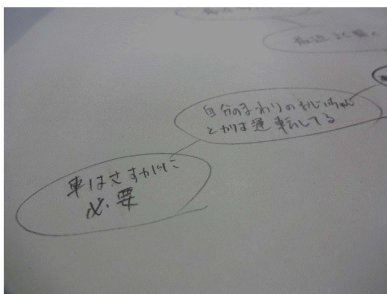
次に、予告編2は最後に「ドラえもん」というキャラクターが無く、予告編1とは雰囲気の違い「人の叫びのコーラス」が用いられている。また、のび太がおびえたり、しずけちゃんの名前を叫んだりするシーンなどがある。このようなことを基に考えると、予告編2では「緊急危険が迫るアクション映画」として作られたと思う。この動画では、「感動」の要素を一切含んでいないため、「いつものドラえもんとは違う?」と受け手に感じさせることができています。しかし実際にはアクション要素はあまり無く、感動的なシーンがと多いので、予告編2をみて「サダメハラハラするために映画を観に来た人にとっては「物足りない」と感じるのではないかと思います。だから、予告編2のようにアクション要素を主眼にした売り方は、客のことを考えるとこの映画ではあまり適していないと私は考えた。

予告編3は、前半に秘密道具を並べ、さらに出来杉くんを出している。このような「ドラえもん」の登場人物の登場や、命令法で強制された「未来を変える」という言葉から今までと違った「ドラえもん」をイメージしていることが分かる。また、後半にはのび太とドラえもんの思い出のシーン、のび太が戦うシーンでのセリフにより「感動」を全面に出している。さらに、しずけちゃんのパパのセリフをきいて「親子で観たい」と感じるものもあると思う。このように、受けてに印象づけたことを受けて予告編動画から編み作られた理由は人によって好みや違うからだと思います。できるだけ多くの人に映画を観てもらえるように、それぞれの好みに対応した予告編が作られたと私は考えた。

(写真1 単元の終末の課題と生徒がまとめた文章の一部)

(3) 編集意図やニュースの伝える情報の公共性や妥当性を考えるという変化が生徒に生じた

「高齢者による車の事故」について、マッピングを見ると、生徒たちの既有知識はNHKの主張と近いものが多かった。具体的には、「判断力の低下」



(写真2 マッピングの一部)

などの「原因」を挙げるものや、「自分の祖母が講習会に行った直後に事故を起こしてしまった」という見聞くらいにとどまった。そんな中、「車はさすがに必要(写真2)」。「運転

せざるをえない状況がある」という別の視点での知識や経験も見られたためこの意

- 1: NHKは高齢者事故について重大に考えている。唯一事例を取り上げて高齢者事故の実態に事故の実態に迫っている。
- 2: 簡単にまとめて3の端的さと1の詳しさを兼ね備えている。
- 3: 最低限のことしか伝えない。対象となる年代が若いから高齢者事故との関係が薄いから時間も短くて内容も薄い。

(図3) xSyncで共有したグループの意見画像

見を大切にして全体で取り上げた。動画テキストを論理的・批判的に読み解かせるためには、多視点・多角的に考えることが必要となる。そこで、事前に他のメディアからの情報を収集し、整理させ、新聞情報も学習材に用意し(表8)、新たな情報として、「補助金対象の市の取り組み」や「自動運転」の記事を配付し、

これからの時代、情報は自分で考え、自分で集め、自分で切り取るべきだ
らう。インターネット等の普及で情報があふれたこの世界、正しい情報は「ある」の
ではなく「作る」策になっている。
自分で調べてきた高齢者事故の報道でも、同じことが言えるだろう。連日報道
ビシクアツされているのは、「悲しい」が強調される事故報道。調べた局の
ニュースを見れば、上がり下がりの高齢ドライバーの事故がいくかに
多いが、それ、どうすれば防げるか、そして何より情報を享受している側が知
らず知らずに思ふ、「高齢者事故をいじめよう」という印象だ。それはメディア側
がこのニュースを報じ、潜在的に意識している事実であり、社会全体とし
ての正しい「事実」になり得る。しかし、その中で正しいわけではなく、あるデータ
によると、高齢者よりも若年層の方が事故を起こすやすく、その上40代の
方が死亡事故を起こしやすいという。
このように、情報の正誤はメディアによって決められてしまっている状態
にある。しかし、そう言っているのに情報を必要になる。その根拠が間違
っていた場合、その議論は「間違い」になる。
結果として、自分の中の正しい情報も、自分で決めていかなくては
いけないと思う。

(写真3 メディアへの接し方についてのある生徒のまとめ)

(表8) 学習材とした新聞資料

- 読売新聞「高齢者 踏み間違い多発」
(2017.2.5 朝刊)
- 読売新聞「電機大手『自動運転』に
商機」(2016.11.29 朝刊)
- 読売新聞「高齢者運転事故の割合増」
(2017.1.30 朝刊[岩手])
- 読売新聞「高齢者の新車購入 補助」
(2016.9.20 朝刊[鳥取])
- 朝日新聞「(声 どう思いますか) 高齢
運転者の事故なくすには」
(2017.2.1 朝刊)
- 朝日新聞「(月刊安心新聞) 高齢ドラ
イバーの事故 統計と報道イメージ
に差」(2016.12.16 朝刊)

今回の動画ニュースでは報じられていない事故防止
対策があることを知らせ、一方の主張に偏らないよ
うに配慮した。NHKの「家族団欒の夕食の時間に
視聴する時間帯の番組だからこそ、免許自主返納の
促進を図り、家族で話題としてほしい」とする主張
や、それぞれの番組の視聴者への影響まで想定した
ことを分析し(図3)、意見を述べ合った。

本件を動画テキストとした場合、二つの軸で論理
的に考えさせる必要があった。一つは「高齢者の運
転をどう考えるか」、もう一つは「高齢者の起こす
事故の報道のあり方としてどう考えるか」である。
そこで、本時の最後に、「news every.」(1月27日放
映)の中で16日に行われた「有識者会議」を発端と
した「高齢者による車の事故」の防止策について
の報道、つまり、三番組にはない内容を補足として視
聴させた。高齢者に免許自主返納を促したいところ
ではあるが、昼間は働き手が都内などに出かけてし
まう状況や、残された高齢者は運転せざるを得ない
状況、山間部の高齢者の環境など、現実の問題は多
い。「自動運転バス」などが先進的な取り組みとし
て紹介された。

また、朝日新聞朝刊(2016.12.16)には、論説委員
の神里が、最近の「高齢ドライバーの事故」につい
て、統計と報道イメージに差があると批評した。「メ
ディアには議題(アジェンダ)設定機能というもの
があり、『今どんなことが問題か』を指し示す役割が
ある。そしていったん、社会的なアジェンダにな
ると、普段ならば優先順位が低いニュースでも、積極
的に報じられるようになる。今回も、痛ましい事故
が起こったことにより、アジェンダが『高齢ドライ

バー』に限定され、それに適合する報道が増えたと
推測できる」と論じ、時々、別の角度から自らの思
考を点検するを示唆した。データでは、一番事故を
起こしている件数が多いのは、40代だという。単
元の終末には、自主返納を推すNHK側の編集意図
に気づかせた上でニュースの公平性を問い、ニュー
スの妥当性について、生徒に意見を持たせ、メディ
アへの接し方を考えさせた(写真3)。多くの生徒が
メディア環境の変化に伴い、本研究による新しい学
習の重要性を感じていた。

参考文献

- ・荒川恵美(2016)「メディアを読み解く—映画の
予告編動画を分析し、論理的・批判的思考力を高
める—」日本国語教育学会『月刊 国語教育研究』
5月号(第529号):pp42-43
- ・荒川恵美(2015)「国語科メディア・リテラシー
教育のカリキュラム構築を目指して—『CM』分
析で批判的に読み解く能力を育てる—」千葉大
学教育学部附属中学校編『千葉大学教育学部附属
中学校研究紀要』第45集:11-19
- ・千葉大学教育学部附属中学校(2016,2017)『第52,
53回中学校教育研究会会誌』
- ・松野良一・間島定幸・五嶋正治・村田雅之・塚本
美恵子『映像制作で人間力を育てる—メディアリ
テラシーをこえて』田研出版 2013年3月

付記

- ・ドラえもん製作委員会(小学館・テレビ朝日)か
ら、授業での使用の許可をいただいた。
- ・本研究は平成27、28年度科学研究費助成金(奨
励研究)による研究の一部である。